保育現場における臨床心理学的支援の検討
ー多摩市の臨床現場の調査をもとにー

Study of Psychological support in childcare services
—Based on a survey in Tama City—

田中 優[1]，古田 雅明[1]，春日 文[1]，廣瀬 雄一[1]，加藤 悦雄[2]
Masashi Tanaka[1], Masaaki Furuta[1], Aya Kasuga[1], Yuichi Hirose[1], and Etsuo Kato[2]

[1]大妻女子大学人間関係学部人間関係学科 社会・臨床心理学専攻，
[2]大妻女子大学家政学部児童学科 児童学専攻

キーワード：子育て支援，心理支援，保育園，幼稚園，こども園
Key words：Childcare support, Psychological support, Nursery school, Kindergarten, Children’s center

１．研究目的

保育園や幼稚園，こども園といった保育現場において，保育者には発達や親子関係なども含め多岐にわたる高度な専門知識と，臨機応変な対応が求められている．その一方で，近年，発達障がいや児童虐待等への社会的関心の高まりもあり，通常の保育等に加えて心理支援機関や児童相談所等へのリファーなども求められている．しかしながら，保育現場に心理職が配置されることはほとんどないため，現場の保育者から，心理専門職に対するコンサルテーション（間接的支援）が求められている．

教育現場における心理専門職の配置については，1995 年（平成 7 年）に公立中学校にスクールカウンセラーが設置された．その後，スクールカウンセラーの数は年毎に急増し，所管は文部省から各都道府県教育委員会に移され，その活動は年毎に活発になっている．中学校においてスクールカウンセラーが機能し始めると，小学校や幼稚園，保育園などでも，スクールカウンセラー，保育カウンセラー設置のニーズが高まった．そして現在では，国公私立を問わず，小学校，中学校，高等学校，大学ほか，全ての教育機関に，日本臨床心理士会，あるいは各都道府県臨床心理士会等に，スクールカウンセラー（臨床心理士・公認心理師）の配置を依頼することができるようになった．

このような小学校から大学までの教育機関におけるスクールカウンセラーの配置に対して，認定こども園，幼稚園や保育園における保育カウンセラーの配置に関しては，ニーズがあるものの制度としては整っていない現状である．

本研究では，まず保育現場における臨床心理学的支援の課題と問題点について，これまでに蓄積された保育臨床に関する研究を整理する．またこれを踏まえ，保育現場における調査をもとに，社会心理学，臨床心理学，発達心理学，さらには社会福祉学的な知見から多面的に検討することで，保育現場における臨床心理学的支援の課題と問題点の掘り起こしを行う．将来的には，幅広く保育専門職や養育者向けに支援を提供する方法と可能性を探り，よりよい支援の方法をも含めて発展させることを目指している．

そこで，今年度は，保育現場として保育園，幼稚園，子ども園に着目し，それぞれの保育現場においてどのような臨床心理学的な子育て支援活動がなされているのか，その内容と課題について検討することを目的とした．

２．研究実施内容

方法

研究目的の達成のために，保育現場における子育て支援の現状について，これまでの研究を概観し，研究調査場所である保育園，幼稚園，子ども園ごとに文献を分類し，それぞれの保育現場における子育て支援の内容および課題についての分析を行った．

対象文献の選定は，CiNii（NII 論文情報ナビゲ

ータ）と J-stage（科学技術情報発信・流通総合システム）を用いて，1991 年から 2020 年の 30 年間に発表された国内の文献を「子育て支援」「心理支援」「保育園」「幼稚園」「こども園」「保育カウンセラー」「キンダーカウンセラー」「気になる子」のキーワードで検索した．さらに，その中から，保育園・幼稚園・子ども園での子育て支援に関して言及している文献を抽出した．その結果，23 件の文献を分析の対象文献として採用した．

分析

対象文献について保育現場(保育園・幼稚園・子ども園・保育園と幼稚園・保育園と子ども園)ごとに文献を整理し，「発表年」「研究目的」「研究方法」「対象者」「分析項目」「結果」について抽出した．また，保育現場の子育て支援に関する文献の全体的な傾向を明らかにするために，「発表年」「研究目的」「研究方法」の３項目については全体の文献数を算出した（Figure1, Table1,2）．次に，「子育て支援の内容」と「子育て支援の課題」の２項目について，項目に関連するデータが文献の文脈の中でどのように意味づけられているか検討するために，研究場所(保育園・幼稚園・子ども園・保育園と幼稚園・保育園と子ども園)ごとに質的な検討を行った．

Table1. 研究目的

発達障害や気になる子どもの支援の検討	6
保育カウンセラーの役割の検討	4
コンサルテーションの検討	3
カウンセリングの必要性の検討	3
キンダーカウンセラーの役割の検討	3
多職種連携の検討	2
臨床心理士の役割の検討	1
相談員の役割の検討	1
計	23（件）

Table2. 研究方法

量的研究	11
質的研究	7
事例研究	4
文献研究	1
計	23（件）

結果

研究の動向

研究対象の場所については，保育園を対象とした文献が６件，幼稚園を対象とした文献が８件，保育園と幼稚園ともに対象とした文献が７件，子ども園および保育園と子ども園を対象にした文献はそれぞれ１件であり，保育園および幼稚園に関

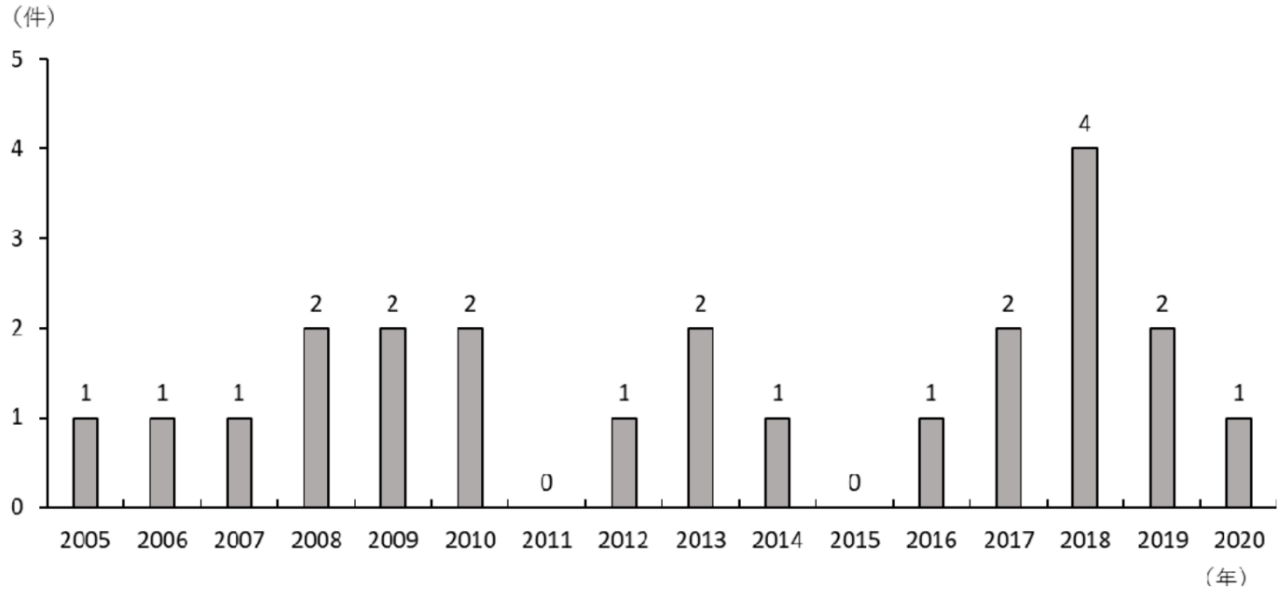

Figure1.　保育現場における子育て支援に関する文献の年次推移

する研究が９割以上を占めていた．2006 年 10 月から「就学前の子どもに関する教育，保育等の総合的な提供の推進に関する法律」が施行され，認定こども園制度が始まったため，こども園を対象とした研究の数は少ない．

発表年次に関しては，2005 年から始まり，その後，継続的に１～２件発表され，2018 年に４件と最も多く発表されていた．2004 年に保育カウンセラーの導入の提案がなされ，同年，試行的に日野市内の一部の公立幼稚園に配置されることになるなど，保育現場での子育て支援の必要性が一層取り上げられるようになり，このような流れから保育現場における子育て支援に関する研究活動もみられ始めるようになったと考えられた．

研究目的については，発達障害や気になる子どもの支援の検討が最も多く６件であった．このことは，2005 年から「発達障害者支援法」が施行され，保育現場では発達支援に関するニーズが年々高まっていることからもうかがえた．また，保育カウンセラーの役割の検討（４件），キンダーカウンセラーの役割の検討（３件），臨床心理士の役割の検討（１件），相談員の役割の検討（１件）と，それぞれの心理職に関する役割の検討を合計すると９件あり，またそれぞれの結果からも，心理職に対する期待が高まっていることがうかがえた．さらに，コンサルテーションの検討やカウンセリングの必要性の検討がそれぞれ３件あり，子育て支援に関するより一層の専門的知識が保育現場において求められていることが示唆された．

子育て支援の内容 (Figure2)

全ての保育現場に共通の内容

子育て支援の内容に関して，全ての保育現場でみられる内容として，「専門家や外部機関との連携」，「巡回相談/コンサルテーション」，「気になる子どもの保護者支援」があげられた．このことは，研究目的で発達障害や気になる子どもの支援の検討が最も多かったことからも考えられるように，保育現場では発達支援のニーズが年々高まっており，発達支援や気になる子どもとその保護者に対する取り組みを積極的に行っていることが明らかとなった．障害児や気になる子どもとその保護者を支援するために，心理職と保育士が協働することで，園全体の職員間や外部専門機関との連携が活性化することが指摘されており，園の組織全体の機能促進に繋がっていることが示唆された．

保育園と幼稚園で共通の内容

次に，保育園と幼稚園でみられる子育て支援の内容として，「日常での保護者支援」と「気になる子どもへの支援」があげられた．このことから，発達障害や気になる子どもの支援の保護者に限定されることなく，全ての保護者に対して日常的な支援を行っていることが明らかになった．例えば，園庭開放や未就園児保育，延長保育や育児相談業務などを実施する園が増えてきている傾向がみられた．また，気になる子どもへの支援については，個別の関わりの仕方を検討しながら支援していることがあげられ，一人ひとりに合った適切な関わりを模索しながら保育活動を行っていることが示唆された．

保育園のみの内容

保育園でのみ，あげられた内容は「保育士による心理相談業務」であった．特に指導者層が心理相談業務に関わることが多い傾向があり，ベテランの保育士が必要性に応じて対応していると考えられた．

幼稚園のみの内容

また，幼稚園でのみ，あげられた内容は「未就園児の相談業務」であった．幼稚園によっては園児確保の必要性があったり，未就園児の保護者の育児が孤立しがちであることから，早期から未就園児の保護者の支援を行っていると考えられた．

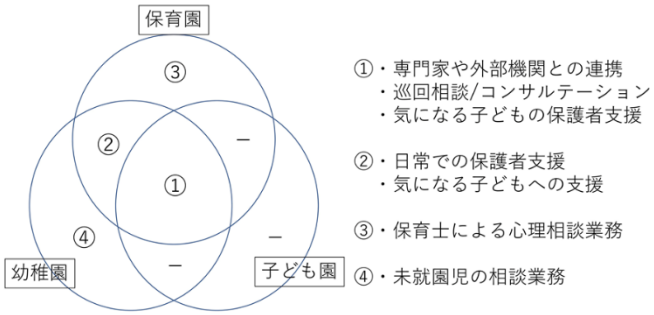

Figure2. 保育現場における子育て支援の内容に関する研究の傾向

子育て支援の課題 (Figure3)

全ての保育現場でみられる課題

子育て支援の課題に関して，全ての保育現場でみられる課題として，「保護者対応に関する心理学的な専門的アドバイスの必要性」があげられた．通常の保育以外にも支援が必要であると感じる子どもや保護者が多く，特に保護者対応に苦慮している状況が見受けられた．どのように子どもの状態を保護者に伝えるべきか具体的な方法や伝え方を知りたいといった専門的なアドバイスを必要としている状況が明らかとなり，心理職の専門性が求められている課題であるといえよう．

保育園と幼稚園でみられる課題

次に，保育園と幼稚園でみられる子育て支援の課題として，「心理職（キンダーカウンセラー，発達相談者）の専門性向上への期待」と「子どもへの支援の充実」があげられた．保育現場ではキンダーカウンセラーや保育カウンセラー，発達相談者など様々な心理職の活動がみられるようになり，そのような状況の中で，子どもの発達に関するより一層の専門的な知識や遊ぶ技術が求められ，心理職の専門性の高さを期待する傾向がみられた．また，時間的なゆとりがないことで子どもへの対応が十分にできないといった保育現場の厳しい状況からも，心理職が心理学的な専門性を活かしながら，より一層子どもへの支援に積極的に関わる事で，より充実した子ども支援が可能になることが示唆された．

保育園と子ども園でみられる課題

保育園と子ども園でみられる子育て支援の課題として，「巡回相談のあり方の検討」と「気になる子どもの保護者への支援の充実」があげられた．巡回相談は，地域によって多様なスタイルで展開されており統一性がないことや，頻度が少なく専門家が保育者への教授という一方通行の関わりとなることが多いことなどが課題としてあげられ既存の巡回相談のシステムに心理士が積極的に関与しながら，より良い巡回相談のあり方を検討する必要があることがわかった．このことは，小川(2014)が述べているように，保育現場はそれぞれの特徴があり，地域・環境などの背景も考慮すると一つの型にはめる必要はないが，各保育現場のニーズに応じた適切な巡回相談のあり方を検討することが重要であると考えられた．また，気になる子どもの保護者への支援の充実については，気になる子どもは外部の専門機関に繋がりにくいという状況があり，保育現場において早期に気づくことができたとしても，その後の対応が遅れてしまうといった状況がみられた．子育て支援の内容において，全ての保育現場において気になる子どもの保護者支援については取り組まれている状況がみられたが，特に保育園と子ども園では，より一層の支援の充実が必要であることが明らかとなった．この課題は，心理職が協働して取り組むことができる課題であると考えられるため，気になる子どもの状態像に応じた保護者支援のあり方など，巡回相談などのコンサルテーションの場において保育現場の職員とともに検討できるのはないかと考えらえた．

保育園のみの課題

保育園でのみ，あげられた子育て支援の課題は，「保育者への心理的支援の必要性」と「より多くの職種との連携の必要性」であった．保育士が行っている効果的な内容について肯定的な評価を行うことで保育士自身の自己肯定感を促したり，保育者の心理的負荷を軽減する支援を検討したりすることは，心理職の重要な役割のひとつであると考えられた．また，より多くの職種との連携の必要性が課題としてあげられたことは，既存の職員だけでは対処することが困難な課題があることがうかがえ，今後，心理職は必要不可欠な存在となることが示唆された．

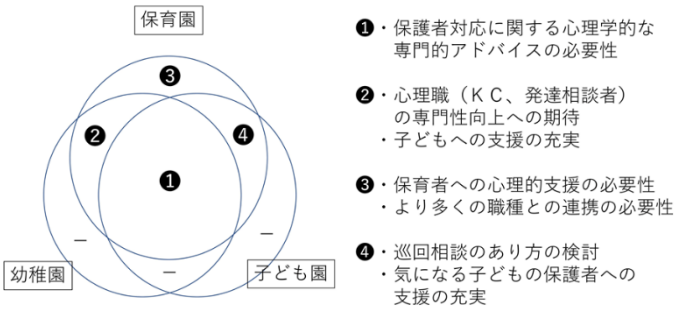

Figure3. 保育現場における子育て支援の課題に関する研究の傾向

３．まとめと今後の課題

まとめ

これまで述べてきた保育現場における子育て支援の内容と課題から，心理職は様々な形で保育現場に関わっているとともに，より一層の連携を期待されていると考えられ，保育現場において心理職が貢献することができる役割は大きいといえよう．現在，保育現場には外部から保育カウンセラーやキンダーカウンセラー，発達相談員，臨床心理士や臨床発達心理士など様々な心理職が訪問し，協働・連携が広がりをみせている．しかしながら，心理職の配置は全国的に普及していないのが現状である．したがって，心理職は保育現場で求められていることを把握するとともに，専門的知識を活かし協働できることを積極的に提案し，実際に共に課題に取り組むといった実践活動を積み重ねていく必要があると考えられた．

今後の課題

2021 年度の研究から，保育現場として保育園，幼稚園，子ども園に着目し，それぞれの保育現場においてどのような臨床心理学的な子育て支援活動がなされているのか，その内容と課題について，「研究動向」と「子育て支援の内容と課題」について明らかにすることができた．

今後は，これらを基に，保育現場における臨床心理学的支援の課題と問題を把握するために，多摩市内の保育園の保育者と保護者を対象とした量的アプローチからの web 調査を実施し，保育現場における心理支援に関する問題や現場のニーズを洗い出し，保育現場における臨床心理学的支援について検討を進める．さらに，保育園の園長クラス，現場の保育者，保護者への質的アプローチとしてのインタビュー調査を実施する．そして，量的アプローチの web 調査と質的アプローチのインタビュー調査の双方から得られた分析結果の比較による保育現場における臨床心理学的支援を，現実的，実際的に検討する．加えて，量的，および，質的アプローチを統合した混合研究法による現実的，実践的な保育現場における臨床心理学的支援について検討を基にしたアクションリサーチを実施する．

引用文献

小川恭子（2014）．キンダーカウンセラー活動の現場―研究動向と今後の課題について　花園大学心理カウンセリングセンター研究紀要, 8, p. 41-49.

４．この助成による発表論文等

雑誌論文

[1] 春日文，田中優，廣瀬雄一，古田雅明 (2022). 保育現場における心理支援の内容と課題―国内文献の分析から― 人間生活文化研究, 32, 1-15.